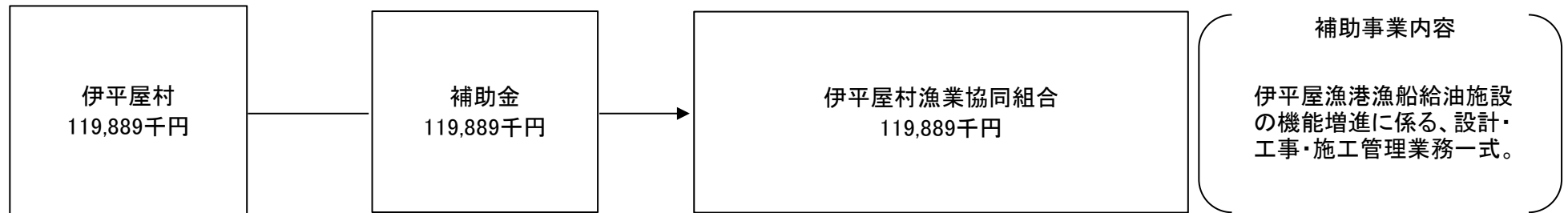


市町村名	伊平屋村						
令和4年度(繰越)沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート							
事業名	伊平屋漁港給油施設機能増進事業	事業類型	<input checked="" type="checkbox"/> 産業振興 <input type="checkbox"/> 定住促進 <input type="checkbox"/> その他				
担当部課名	農林水産課	現年事業または繰越事業	<input type="checkbox"/> 現年事業 <input checked="" type="checkbox"/> 繰越事業				
事業実施(予定)年度	令和4 ~ 5年度						
事業内容	伊平屋漁港給油施設の機能を増進することで、燃料補給時間の短縮と、給油可能油種の拡大を図る。燃料補給時間の短縮により出漁機会が増加すること、給油可能油種の拡大により、水上バイク等への給油が可能となることで漁家がマリンレジャー産業に参入可能となることから、本事業の実施によって水産業振興と漁家経営の安定化を図る。						
先導性等に係る取組	<input checked="" type="checkbox"/> 自立性 <input type="checkbox"/> 官民協働	<input checked="" type="checkbox"/> 政策間連携 <input type="checkbox"/> 事業推進主体の形成	<input type="checkbox"/> 離島活性化を担う人材の確保・育成 <input type="checkbox"/> その他				
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R6年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R4年度(繰越)				
	予算の状況	当初予算額	142,000	0			
		増減額	0	0			
		予算現額	142,000	0			
		前年度から繰越	0	136,146			
		翌年度へ繰越	136,146	0			
		計(A)	5,854	136,146			
	執行済額(B)	5,854	119,889				
	うち補助金充当額	4,683	95,911				
	不用額	0	16,257				
執行率(%) (B/A)	100.0%	88.1%					
予算の状況の説明	見積合わせの結果、当初見込みよりも低額で契約を締結できたため不用額が生じたものの、繰越した事由に沿って給油施設の機能増進事業を行い、適切に執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	給油施設の機能強化	目標	1	1	-	-	-
		実績	0	1	-	-	-
		目標					
	実績						
達成状況説明	当初計画では令和5年3月に完了見込みとしていたが、資材の入手難による納期遅延のため翌年度へ繰越実施し、令和6年3月に給油施設の機能強化を完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値 (H28~R2年度平均)	年度	年度	年度	後年度目標値 (R6年度)
	水揚量の増加	目標	-	-	-	-	3%
		実績	0.0%	-	-	-	6.3%
	成果目標(指標)		基準値 (R2・3年度)	年度	年度	年度	後年度目標値 (R6年度)
	新たな交流人口創出 (漁業者が提供するマリンアクティビティ参加者)	目標	-	-	-	-	100名
		実績	0名	-	-	-	456名
進捗状況説明	○当初計画で算定した水揚げ量の増加率について、基準値673tに対し令和6年度の水揚げは715tとなり、目標の3%を上回る6.3%増となった。 ○漁業者が提供するマリンアクティビティへ3校の修学旅行生が参加した。基準値100名に対し、令和6年度は456名の新たな交流人口を創出し、達成率は456%となった。						

取組の検証	成果目標に対する原因・要因分析	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>○給油施設の機能が増進したことで安定した出漁日数を確保することができ、水揚げ量増加の目標を達成することができた。</p> <p>○機能増進によりガソリン油種の供給が可能となったことで、漁業者がマリンアクティビティを提供できるようになり、修学旅行等の団体旅行の受け入れに繋がったため。</p>	<p>○作業効率化により給油作業時間を短縮することで、漁船の作業時間を延ばし、鮮魚水揚げの更なる増加を図る。</p> <p>○団体旅行者のみならず個人旅行者への広報も強化することで、漁業者の提供するマリンアクティビティへの参加者を増加させ、更なる交流人口の創出へと繋げる。</p>
今後の取り組み方針		
<p>○給油施設の運用をより効率的なものとするため、漁業組合の人材確保や育成等について支援を行う。</p> <p>○観光協会や商工会等と連携した観光プランの提案や、SNSやポスターの掲示等による情報発信を強化することで個人旅行者の獲得を目指す。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担額	補助対象外経費
119,889	119,889	95,911	23,978	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	本事業は漁港に給油施設を整備するものであることから、給油施設を管理する漁業組合を補助対象としたことは、妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	積算については、見積に基づいて予算編成を行った。不用額については、補助対象者が複数者から見積を徴取するなど経費縮減に努めたことで生じたものであり、適正なものであった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	受益者は、事業費の20%を負担金として村へ納付しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用及び使途について、実績報告に基づいて検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。